

サマープログラム体験記

名古屋大学 3 年 田結莊あかり

まず、事前研修では、かがやきクリニックの名古屋の拠点で見学をさせて頂いた。一年生の時に座学の授業で地域医療について学んだことはあったが、実際にどのように行われているのかを見たことがなかったため、とても貴重な体験だった。道中でクリニックの医師の方に色々なお話を聞き、在宅医療の大切さを再認識した。病院では、患者さんと深く話す機会を十分に持てないことも多く、本人の意思を確認できないまま入退院を繰り返す患者さんも多いとのことだった。在宅医療では患者さんの生活状態を見ることができ、本人の希望を聞く時間も病院に比べて長く取ることができるため、より患者さんの希望に沿った医療を行いやすいことを知り、在宅医療がとても魅力的に感じた。

プログラムの 1 日目ではまず、日本の医療制度や保険について学び、良いところや問題点について議論した。日本の医療について自分があまり知らなかったことが分かった。日本の医療は問題点はあるつつも、他の国と比べて患者さんにとって良いところもたくさんあることが分かり、問題点を解決してさらに良い医療にしていきたいと思った。その後名大病院を見学させて頂いた。まだ病院内に入ったことが数えるほどしかなく、実際の医療の現場を見ることができる機会は刺激的だった。その後の研究室見学では中国の学生と一緒に糖尿病・内分泌内科学を訪問させて頂いた。一人一人の患者さんについて栄養面で栄養士や看護師の方々と話し合う会議に参加させて頂き、保護者の方の心情など細かいところまで考えられていてすごいと思った。また、どのような研究をされているのかを説明して頂いたり、糖尿病の患者さんが使用されている器具を見せて頂いたりして、糖尿病・内分泌内科学についての理解が深まった。

2 日目は、まず Larson 教授の老年内科についての講義を受けた。高齢者の患者さんにどのように向き合うべきかについての理解が深まった。日本は世界的に見ても高齢化が進んでおり、老年内科の重要性は高まっていると感じた。ポリファーマシーについての理解や問題意識はすべての医学生が持つべきだと思った。次に、起業についての講義を受けた。私はもともと起業に興味があったが、学ぶ機会が今までなかったため、とても貴重な機会だった。特に、起業プログラムにいくつも参加された先輩のお話を聞き、自分も頑張りたいと思った。また、初めて xR センターに訪問し、リアルに手術を練習できる機械に驚いた。このような機械でもっと練習したいと思った。最後の IT 技術についての講義もこれからの時代の医療にとって重要だと感じ、興味深かった。

3 日目は岐阜のかがやきクリニックを訪問させて頂いた。まず隅々まで考え尽くされた建物に驚いた。子供用の棟では、天井をよく見る車椅子の子供が楽しめるように天井に模様があったり、障がいのある子供と健常者の子供と一緒に楽しめるプールがあったりと、とても魅力的だった。その後の市橋先生の講義では、本当に色々と考えさせられた。病気を治療することだけでなく、地域の人々の幸せを創るというお仕事をされていて、医者という職業の可能性を感じ、今までの医師の仕事の概念が壊された感じがした。施設も患者さんのためというわけではなく、地域の人たちが色々な目的で使えるとのことだった。このような施設が全国各地に増えたら素晴らしいと思った。また、先生が紹介された「人が死んだ後に残るものは集めたものではない、与えたものである。」という言葉が個人的にとても印象に残った。この言葉を聞き、心から私も人の役に立ちたいと思えた。この言葉はこれから一生忘れないほど自分にとっての大切な言葉になった。その後グループに分かれて在宅医療のメリットとデメリットについて他の国の学生と話し合った。話し合い、他のグループの発表を聞くことでさらに在宅医療についての理解が深まった。嚥下障害がある人でも外食を楽しめるカムカムスワローというレストランでは、実演を交えてどのような工夫をされているかを知り、勉強になった。自分が知らないところにさまざまな需要があることを知り、その声に応える活動は素晴らしいと思った。岐阜県の伝統である鵜飼も見学し、日本の伝統の素晴らしさも感じる事ができた。

4 日目の午前中は、かがやきクリニックで小児のリハビリを見学させて頂いた。一緒に遊びながら足の様子や姿勢などを確認し、栄養面で保護者の相談に乗ったりされていて、とても心強いサポートだと感じた。もともと大きな病院で働いていたが今はかがやきクリニックで働いている栄養士の方になぜかがやきクリニックで働くことにしたのかをお聞きしたところ、在宅医療で患者さんの家に行った時に初めて患者さんの生活の様子を目の当たりにして、病院で指導していた時にはあまり生活が見えていなかったことに気付き、在宅医療をやってみようと思うようになったという言葉が印象的だった。その後美濃で海外の学生を案内し、改めて日本の伝統の良さに気付かされた。在宅でのデンタルケアについての講義では、食べることが患者さんの幸せにとってどれほど大切かや、そのための歯科の大切さをエピソードを交えて学ぶことができた。患者さんの幸せのためには多方面からアプローチしていくことが大切だと感じた。最後に未来の医療について国ごとに話し合った。話し合いの中で、このプログラムに参加する前とは未来の医療についての自分の考えが変わっていることに気付き、多くのことを学んだと実感した。特に在宅医療や遠隔治

療はどの国でも挙げられていて、私自身もこれからの医療には必須だとこのサマープログラムに参加して思った。それぞれの国で違うところもあって、興味深かった。

最終日はあいにく体調を崩してしまい参加できなかったが、約一週間でたくさんのことを学ぶことができた。プログラムの間に他の国の学生と話す機会もあり、全く違う教育を受けていることに驚いた。どの学生もとても医学に対して意欲的で良い刺激を受けた。一番印象に残ったのはかがやきクリニックの訪問で、自分の医師という仕事に対する考え方が大きく変わった。私も将来治療だけでなく色々な方法で人の幸せに役立てるよう今のうちに選択肢を増やして自分を高めていきたいと思うようになった。普段の大学の授業では治療についての勉強がメインなので、今回のようにさまざまなアプローチを学び、海外の学生と議論することで視野を広げられる機会はとても貴重だった。今回学んだことを今後の医学部生活に活かして頑張りたい。

